

記者発表資料

霞ヶ浦最大の湿原「妙岐の鼻」で、 ヨシ焼きを行います！

「妙岐の鼻」（稲敷市浮島地先）は、面積約50haの霞ヶ浦最大のヨシ原です。

ヨシを主体とした多様な湿地環境では、貴重種19種含む300種以上の植物が確認され、その植物を生息環境として利用しているオオセッカやコジュリン等の貴重な鳥類も見られます。さらに猛禽類のチュウヒのねぐら入りが確認されるなど、とても貴重な環境が残されています。

また、古くから茅の採取場として利用され、現在も刈り取られた茅は、日本三名園である水戸の「偕楽園・好文亭」の茅葺き屋根にも使用されるなど、とても品質の高い茅が採れる貴重な場所となっています。

しかし、近年はヨシ焼きが実施されなくなり、貴重な植物群落の質の低下が懸念されていることから、湿地環境と伝統文化の保全を目的にヨシ焼きを行うものです。

実施日時：平成31年3月3日（日）9：30～12：00
（悪天候の場合は、3月9日（土）に延期します。）

[防火帯を確保する事前準備は、2月25日（月）9:00～行う予定です。
悪天候の場合は2月28日（木）です。]

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ・神奈川建設記者会・茨城県政記者クラブ
土浦記者クラブ・鹿島記者クラブ・千葉県政記者会・水資源記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所
副 所 長 小栗 幸雄（おぐり さちお）
湖沼環境課長 永井 一郎（ながい いちろう）
TEL0299-63-2411(代) FAX0299-62-4652

独立行政法人 水資源機構 利根川下流総合管理所
環 境 課 長 片岡 稔温（かたおか としはる）
TEL0299-79-3311(代) FAX0299-79-3316

妙岐の鼻（茅場）の一部をヨシ焼きします

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所
水資源機構 利根川下流総合管理所

「妙岐の鼻」(稲敷市浮島地区・稲敷大橋下)茅場の一部のヨシ焼きを、以下のとおり実施します。ヨシ焼きは、妙岐の鼻のヨシをはじめとした貴重な植物等の保全を目的に試験的に一部分で行うものです。

消防署及び関係機関の協力を得て安全確保に努めて実施しますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

また、ヨシ焼き当日は 火災とお間違いのないようにご注意ください。

■実施日時：平成31年3月3日(日) 午前9時30分から午前12時まで
※荒天時等に伴う予備日は3月9日(土)

■ヨシ焼面積：約 2.7 ha (妙岐の鼻全体面積 52 haの約 5%)

■実施目的：貴重な湿地環境と伝統文化の保全

■主催：国土交通省関東地方整備局 霞ヶ浦河川事務所

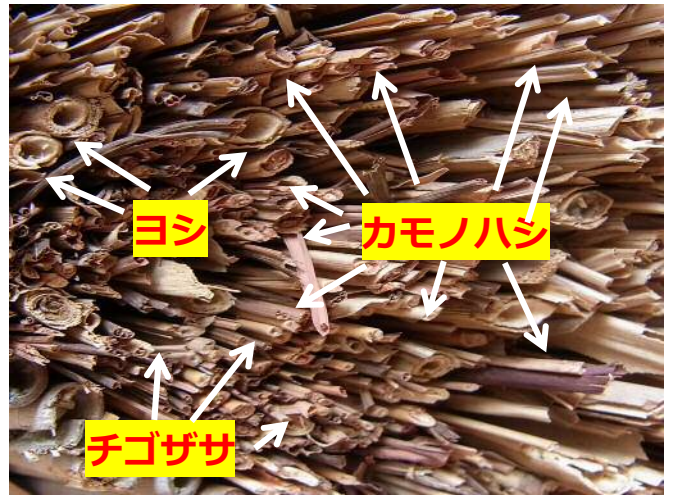
■協力：独立行政法人水資源機構利根川下流総合管理所
ミュージアムパーク茨城県自然博物館
茨城県霞ヶ浦環境科学センター
茨城県県民生活環境部自然環境課生物多様性センター
東邦大学理学部生命圏環境科学科
稲敷市
稲敷市浮島財産区管理会

ヨシ焼予定箇所



「妙岐の鼻」の茅はブランド品

- 日本三名園「偕楽園」 好文亭の茅葺き屋根の葺き替え材料
(カモノハシを主体とした「しまがや」)



(写真提供：東邦大学 西廣准教授)



茅利用者、西廣准教授、野鳥の
会副会長との事前確認



茅刈り機のバインダー



刈り取られ束ねられた茅

ヨシ焼きの範囲等



むかしの妙岐の鼻

妙岐の鼻の南東に位置する本新島干拓は、1947年～1963年（昭和22年～38年）にかけて行われており、左下の写真は、干拓前に撮影されたものです。右下の近年撮影されたものと比べると旧堤防と現在の堤防との位置関係や全体形状の違いが確認できます。



妙岐の鼻の施設のご案内

妙岐の鼻には、野鳥観察ステージ、野鳥観察小屋などの野鳥観察施設や遊歩道といった自然を観察する施設が整備されています。また、堤防沿いには、トイレ・駐車場も完備しています。



お問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構
利根川下流総合管理所

〒300-0732 茨城県稲敷市上之島 3112番地
Tel. 0299-79-3311(代)
Fax. 0299-79-3316

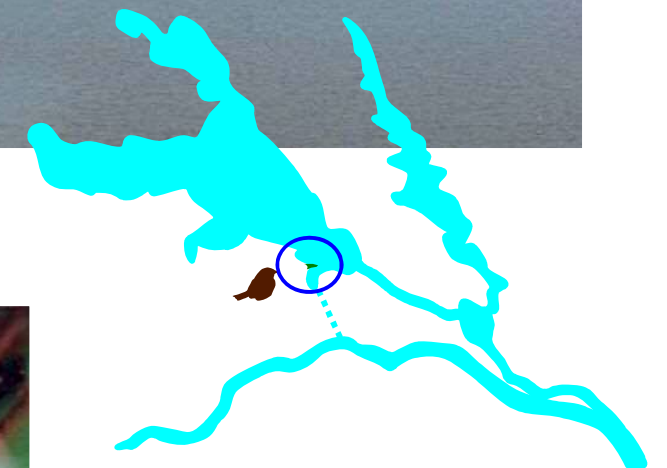
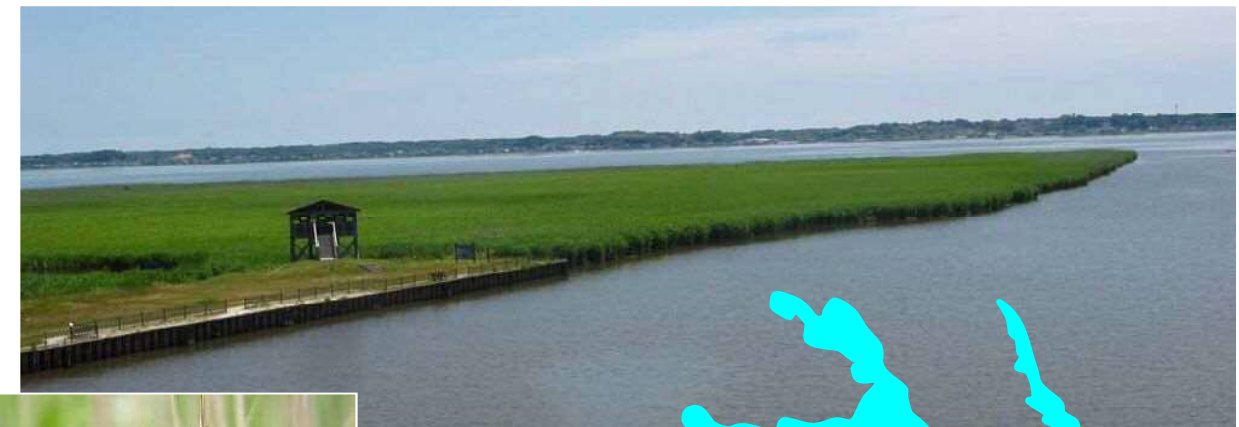
<http://www.water.go.jp/kanto/kasumigaura/>



平成17年 7月14日初版
平成29年 4月24日改訂

妙岐の鼻

自然がくれた贈り物



独立行政法人水資源機構 利根川下流総合管理所

生命を育む豊かな自然 「妙岐の鼻」

妙岐の鼻とは

妙岐の鼻は、霞ヶ浦（西浦）の南西に位置する面積約50haの広大な低湿地です。

この地区には、ヨシを主体とする霞ヶ浦最大の湿性植物群落が分布し、環境庁による第2回自然環境保全基礎調査（昭和53年度）では、妙岐の鼻のヨシ、マコモ、ガマ群落は「自然の状態を保っている草原として保存の価値がある」として、特定植物群落に選定されています。このヨシ原には、さまざまな鳥類が生息しています。霞ヶ浦全域でよく見られるオオヨシキリが数多く生息し、オオセッカにとっては、越冬地、繁殖地として重要な場所となっている他、霞ヶ浦周辺では、コジュリンの繁殖が確認されています。

妙岐の鼻で見られる鳥類

妙岐の鼻では、時期によって異なりますが、各季節20～40種類程度の鳥類が観察できます。



オオセッカ(センニュウ科)

種の保存法 国内希少野生動物植物種
環境省RDB 絶滅危惧ⅠB類
茨城県RDB 絶滅危惧ⅠB類

オオセッカは、湿原に生息する留鳥で、国内での生息地は数ヶ所、国外では、中国に若干数が生息するだけの国際的に数の少ない貴重な種です。ここ妙岐の鼻は、越冬地、繁殖地の両面から重要な場所となっています。繁殖期には「ジュクジュクジュク…」と特徴的なさえずりをします。



コジュリン(ホオジロ科)

種の保存法 指定なし
環境省RDB 絶滅危惧Ⅱ類
茨城県RDB 絶滅危惧Ⅱ類

コジュリンは、本州と九州に限られた草原に生息する留鳥で中国北東部と日本にのみ分布する国際的に貴重な種です。繁殖期の雄は、頭巾をかぶったように頭が黒くなっているのが特徴です。ここ妙岐の鼻では、繁殖も行われ、年間を通して観察できます。「ピッチリリピリリ」というさえずりをします。



オオヨシキリ(ヨシキリ科)

環境省RDB 指定なし
種の保存法 指定なし
茨城県RDB 指定なし

オオヨシキリは、北海道から九州までの各地のヨシ原に飛来して繁殖する夏鳥で、国外に広く分布しています。ここ妙岐の鼻は、4月の終わり頃飛来し、丈が高く太いヨシを好みます。「ギョギョシ ギョギョシ ケシケシ」というさえずりをします。



コヨシキリ(ヨシキリ科)

種の保存法 指定なし
環境省RDB 指定なし
茨城県RDB 絶滅危惧ⅠB類

コヨシキリは、北海道から九州までの各地のヨシ原に飛来して繁殖する夏鳥で、国外では、ウスリーから中国東北部にかけて分布しています。ここ妙岐の鼻には、5月頃飛来し、細めのヨシが生えている場所で繁殖します。ヨシや灌木の頂部で「キリキリピッキョリリリピリリリ」というさえずりをします。



妙岐の鼻の環境調査

妙岐の鼻では、環境の変化を把握することを目的として、毎年6月に鳥類調査、秋季に植物調査を実施しています。



鳥類調査状況

妙岐の鼻で見られる植物

妙岐の鼻で行った植物調査では、約100種の植物が確認されています。



ヨシ(イネ科)

ヨシは、霞ヶ浦全域で見られる高さ2～3mの抽水植物で、茎を密生して大群落をつくります。



カモノハシ(イネ科)

カモノハシは、高さ約0.6mの多年草で、夏から秋にかけてつける2本の赤紫の花穂がカモのくちばしに似ていることからこの名が付けました。



カサスゲ(カヤツリグサ科)

カサスゲは、高さ約1mの湿生植物で、群落を作り、花を咲かせます。昔は乾燥させた葉が、蓑笠を作るのに使用されました。



チゴザサ(イネ科)

チゴザサは、高さ約0.3～0.5mの多年草で、葉は硬く、6～8月に多数の穂状の花を咲かせます。



カドハリイ(カヤツリグサ科)

カドハリイは、湿地に生える多年草で、霞ヶ浦でしか確認することが出来ない貴重な植物です。



植物調査状況